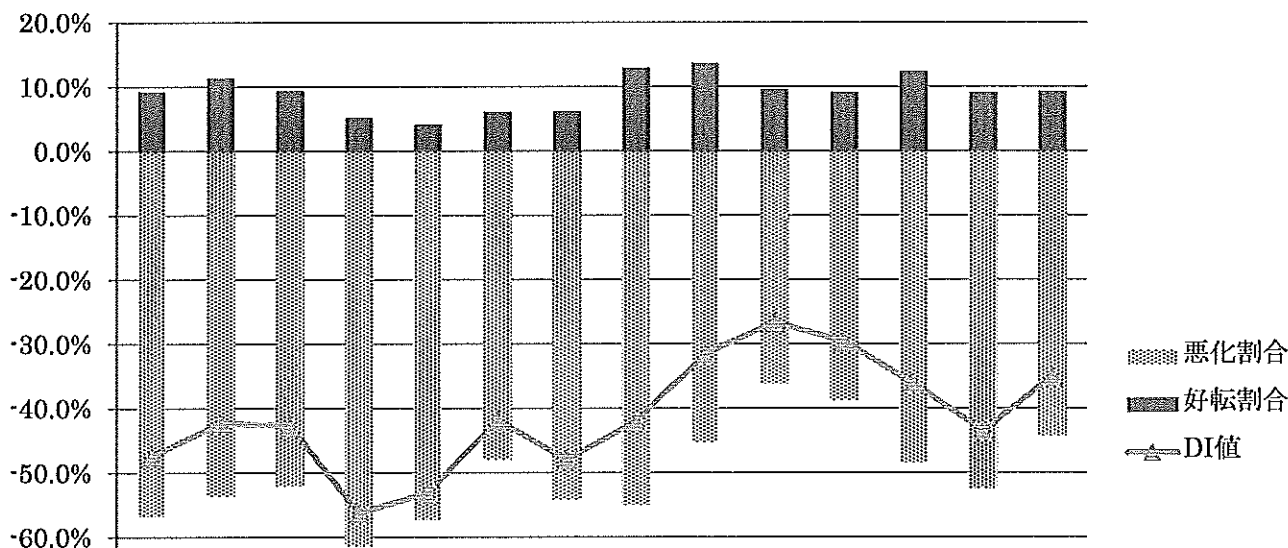


# 景況調査の結果

平成 23 年 7 月～9 月期の景況の現状と平成 23 年 10 月～12 月期の見通し

概況 出羽商工会では、毎四半期ごとに会員の景況に対する意識調査を実施している。今回、調査期間は、8 月 29 日から 9 月 1 までの聞き取り方式とし、全業種 100 社に対して調査した。回収となったのは、99 社である。その結果、良くなった割合から悪くなった割合は、△35.1 となり、6 月調査は△43.4 で 8.3 ポイントマイナス幅が縮小し、景況が上向いていると判断している。しかし、景況感は依然、低迷している状態である。業種的には、今期は、建設業とサービス業が好転経過を示しているが、製造業が落ち込み、小売業は、低迷状態が続いている。

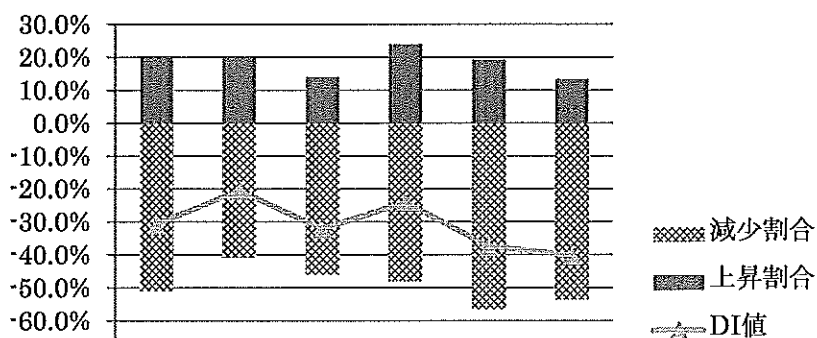
全業種業況判断



	H20.6	H20.9	H20.12	H21.3	H21.6	H21.9	H21.12	H22.3	H22.6	H22.9	H22.12	H23.3	H23.6	H23.9
悪化割合	-56.7	-53.6	-52.1	-61.5	-57.3	-48.0	-54.2	-55.0	-45.3	-36.2	-38.8	-48.5	-52.5	-44.3
好転割合	9.3%	11.3%	9.4%	5.2%	4.2%	6.1%	6.3%	13.0%	13.7%	9.6%	9.2%	12.4%	9.1%	9.3%
DI値	-47.4	-42.3	-42.7	-56.3	-53.1	-41.8	-47.9	-42.0	-31.6	-26.6	-29.6	-36.1	-43.4	-35.1

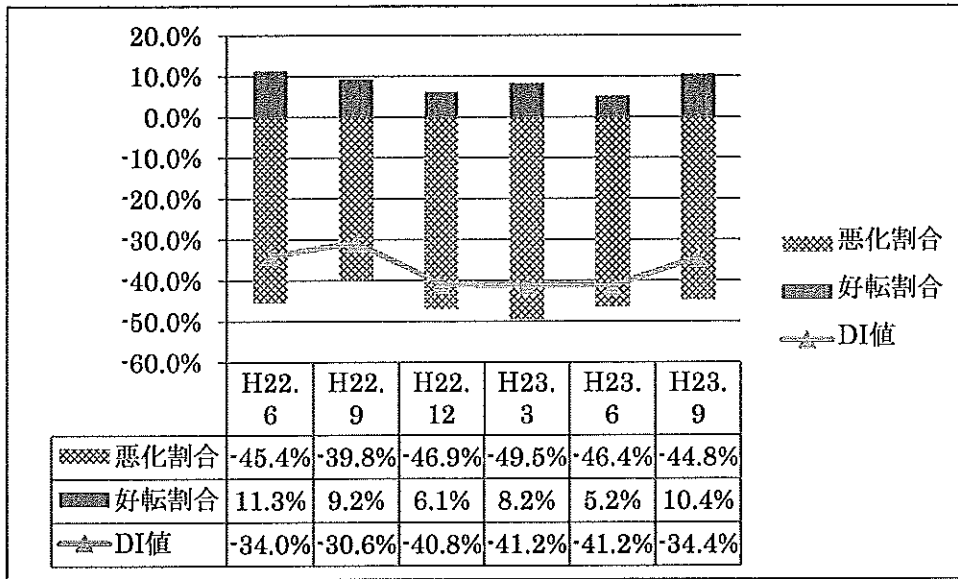
## 1) 売上推移・・・減少割合事業所が依然多い

ここ 1 年間の売り上げが上昇したか、減少したかの割合の推移である。売上自体は、依然減少傾向に歯止めがかからない実態を示している。業種的には、小売業の調査対象事業所の半数以上の事業者が、売上が落ち込んでいることと答えている。小売業の根本的な解決策が、必要と思われる。



	H22.6	H22.9	H22.12	H23.3	H23.6	H23.9
減少割合	51.0%	40.8%	46.0%	48.0%	56.6%	53.6%
上昇割合	20.4%	20.4%	14.0%	24.0%	19.2%	13.4%
DI値	-30.6%	20.4%	-32.0%	24.0%	-37.4%	40.2%

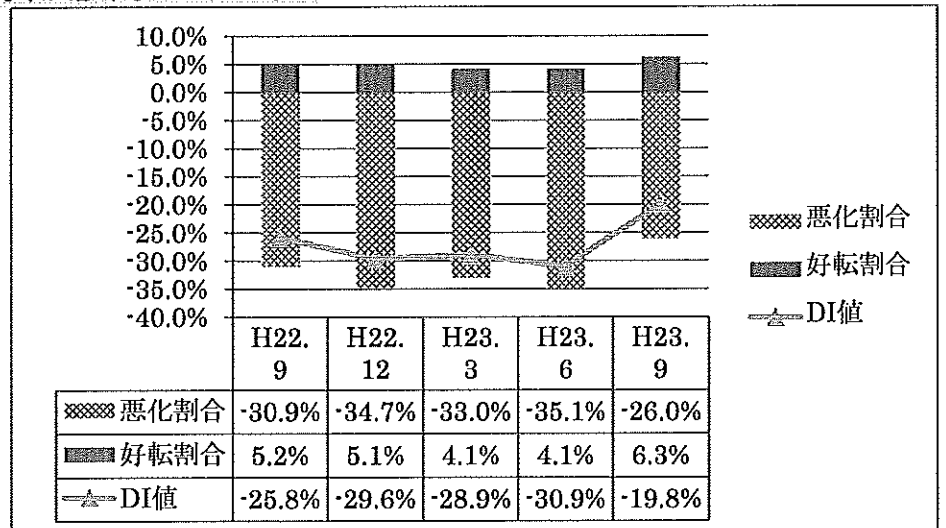
2) 採算面の推移・・・悪化傾向止まらず



採算面での推移は、好転するという事業所の割合が極端に少ないことがあげられる。それに対する、悪くなる割合の事業所が多いことが、あげられる。売上も落ち、採算も厳しくなってきた。小規模事業者にとっては厳しい時代に入っている。自社に強みのある事業所がこれから生き伸びていくのだろう。

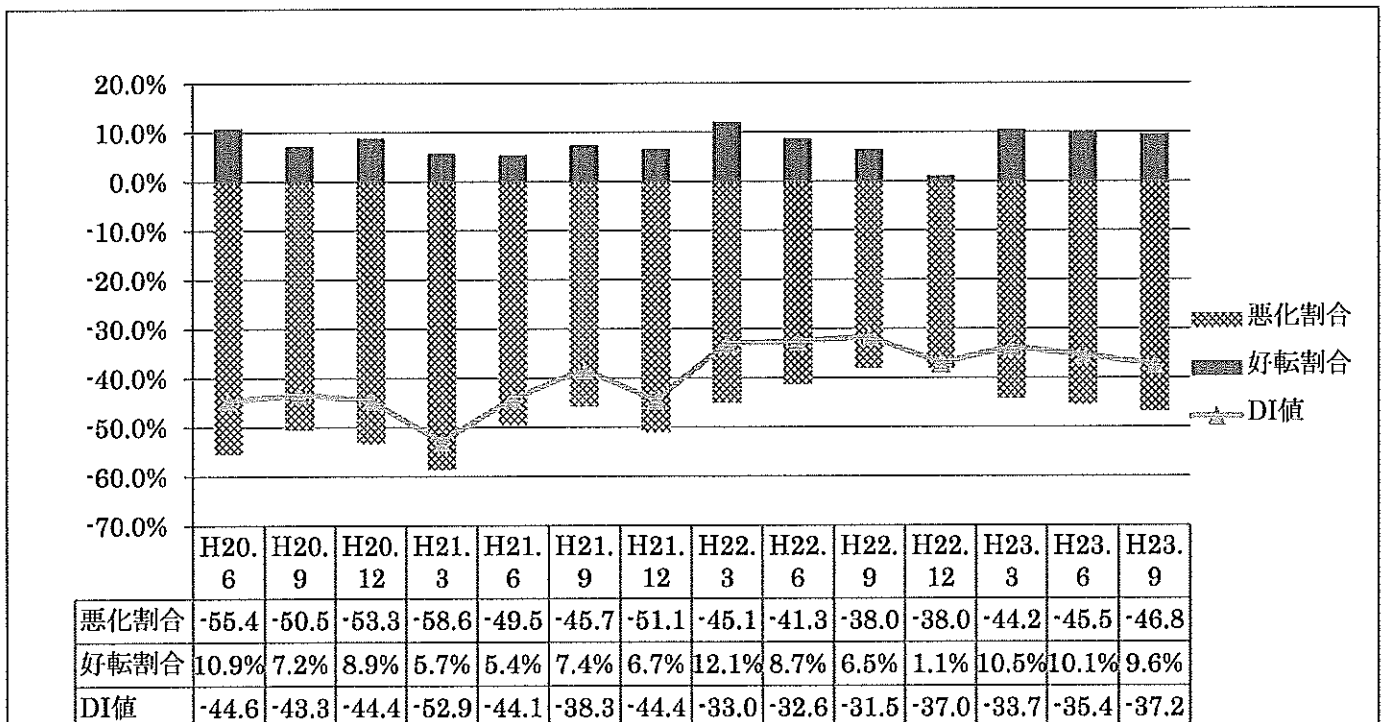
3) 資金繰りの推移・・・厳しい状況続くが悪くなってはいない

資金繰りの流れを見てみると、悪くなっている事業所の割合が、少なくなっている。変わらないと答えたの割合が、増加している。資金繰りは、安定してきていると思われる。



来期の見通しについて

来期も、同様に好転するとは見ていないようだ。

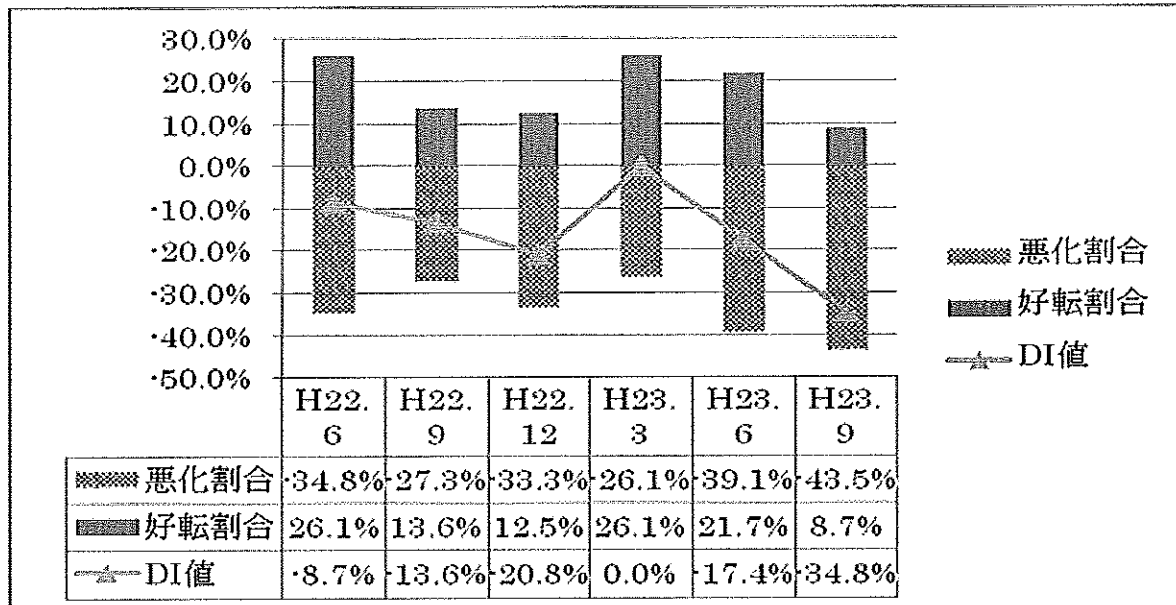


# I、製造業

## 1、概況

業況判断指数 DI 値（「良い」-「悪い」企業割合）は、△34.8 となり、6月調査と比較して 17.4 マイナス幅が拡大し業況は悪化した。前年同期（△13.6）に対し 21.0 ポイントマイナス幅が拡大した。

業況判断[DI]



### 1) 売上額、採算の状況・・・売上減少、採算悪化

売上額の6月調査DI値は、△8.7に対して、今期DI値は△34.8で26.1ポイントマイナス幅が拡大悪化した。来期の見通しについては、6月調査△17.4と今期△17.4となり、横ばいと見通している。採算面では6月調査DI値は、△26.1に対し今期DI値は△52.2で26.1ポイントマイナス幅が拡大し採算は悪化した。来期の見通しについては、6月調査DI値△30.4と今期△42.9となり12.5ポイント採算が悪化すると見通している。

### 2) 受注残・・・横ばい

受注残の6月調査DI値は、△10.5に対して△11.1で0.6ポイントマイナス幅が拡大し、横ばい傾向の状況である。

### 3) 価格の状況・・・販売単価ほぼ横ばい・原材料価格低下

販売単価の6月調査DI値は△4.2に対して、今期△4.3となり、0.1ポイントマイナス幅が上昇し、販売単価が上昇した。来期の見通しについては、6月調査△17.4と今期0.0となり、17.4ポイント販売価格が上昇すると見通している。原材料仕入単価は、6月調査31.8に対して63.6となり原材料仕入単価が31.5ポイント低下した。来期の見通しについては、6月調査36.8と今期50.0となり13.2ポイント原材料仕入単価も上昇すると見通している。

### 4) 原材料在庫数量の状況・・・増加傾向

原材料在庫数量状況は、6月調査DI値は△15.0に対して今期0.0となり15.0ポイント原材料材料が増加した。来期の見通しについては、6月調査△15.0と今期△11.1となり、3.9ポイント増加すると見通している。

### 5) 資金繰りの状況・・・厳しい

資金繰りの6月調査DI値は、△26.1で今期△39.1となり13.0ポイントマイナス幅が拡大し、より一層厳しくなっているように思われる。来期の見通しについては、6月調査△26.1と今期△21.7となり4.4ポイント改善見通しである。

6) 従業員数の動き・・・ほぼ横ばい

従業員数の動きは、6月調査 DI 値は 0.0 で△4.5 となり若干減少した。来期の見通しについては、6月調査△9.1 と今期△4.8 は、4.3 ポイント増加見通ししている。

7) 設備操業率の動き・・・悪化傾向

設備操業率は、6月調査 DI 値は、△9.1 で △26.1 で 17.0 ポイント設備操業率が悪化した。来期の見通しについては、6月調査△31.8 と今期△14.3 となり 17.5 ポイント上昇すると見通している。

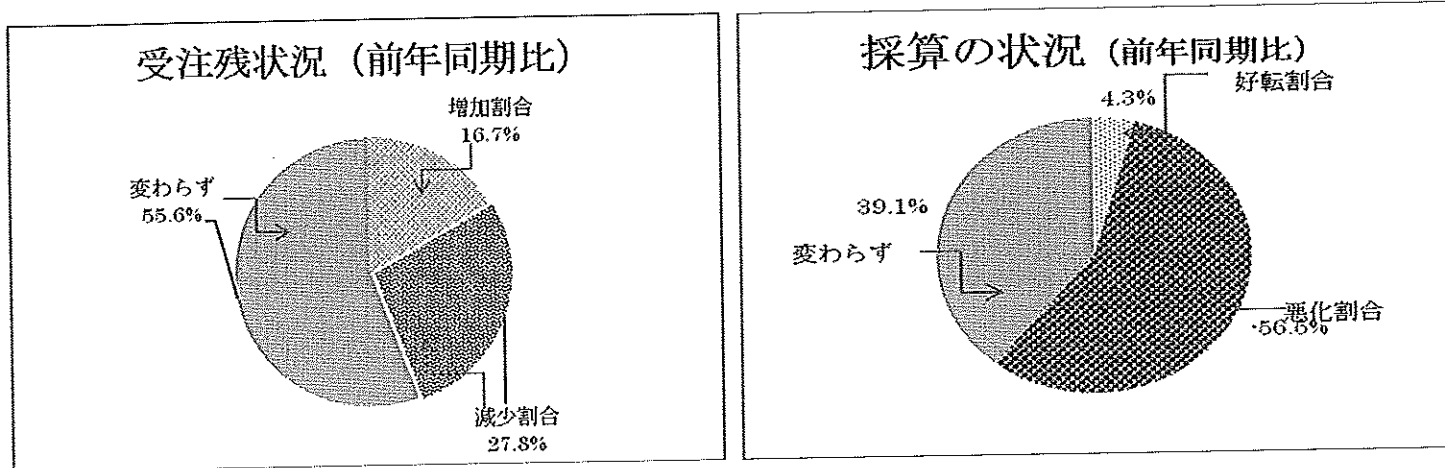
今期の製造業は、一進一退で推移している状況売上単価は上昇を示しているものの、それ以上に仕入単価の上昇や売上数量の減少で採算は悪化しているのではないかと見込んでいる。来期については、売上単価・数量とも上がると見込んでいるが、それ以上に原材料の仕入単価の上昇が懸念して採算が悪化の見通しをしている事業所が多いようである。

2、来期の全体の業況の見通しについて

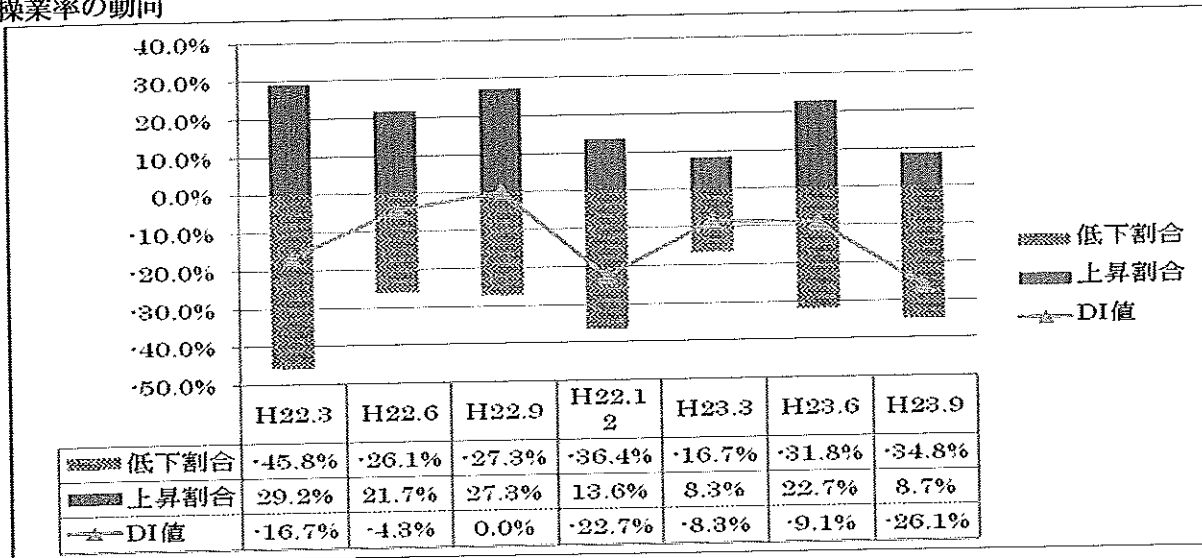
来期の業況の見通しについては、△26.1 となり、6月調査に比較して 4.3 ポイントマイナス幅は縮小し、業況は好転すると見込んでいる。前年同期 (△27.3) に対して、1.2 ポイントマイナス幅が縮小したが、ほぼ横ばいと見込んでいる。

売上額は△17.4 (今期△34.8) で 17.4 ポイント。マイナス幅が縮小し改善、採算は△42.9 (今期△52.2) で 9.3 ポイント幅が改善縮小すると見通している。売上単価は、0.0 (今期△13.0) で 13.0 売上単価がアップすると見込んでいる。原材料仕入価格については、50.0 で (今期 63.2) 13.2 ポイント、プラス幅が縮小し、下降すると見通している。原材料在庫は、△11.1 で (今期 0.0) 11.1 ポイント在庫数量が減少すると見込んでいる。資金繰りの判断 DI 値は、△21.6 (今期△34.8) 13.2 ポイント、マイナス幅が縮小し、窮屈感は和らぐと見通している。

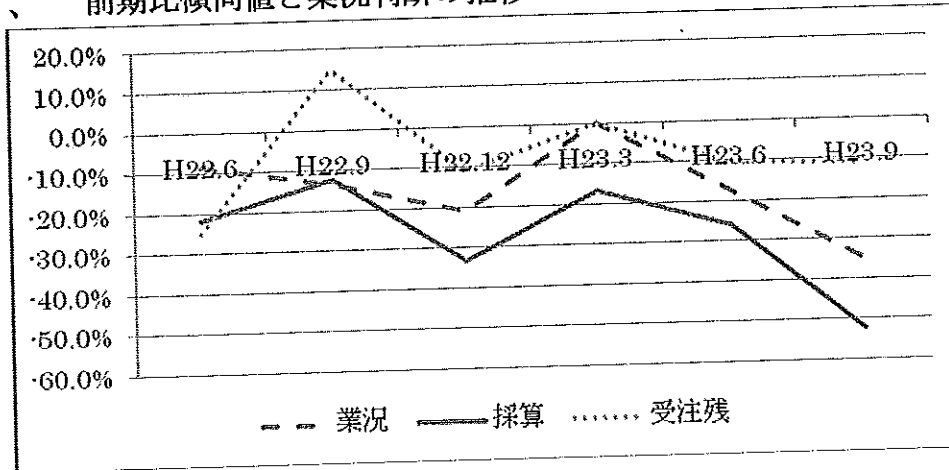
3、 受注残・採算・設備稼働率動向



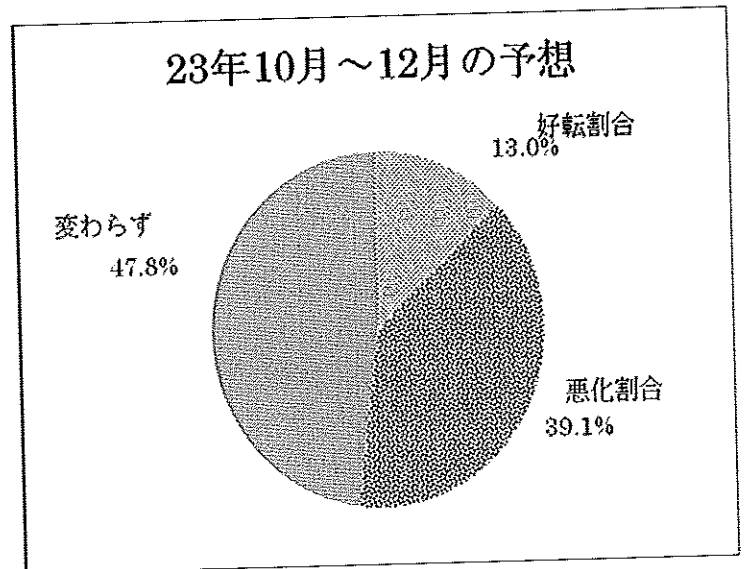
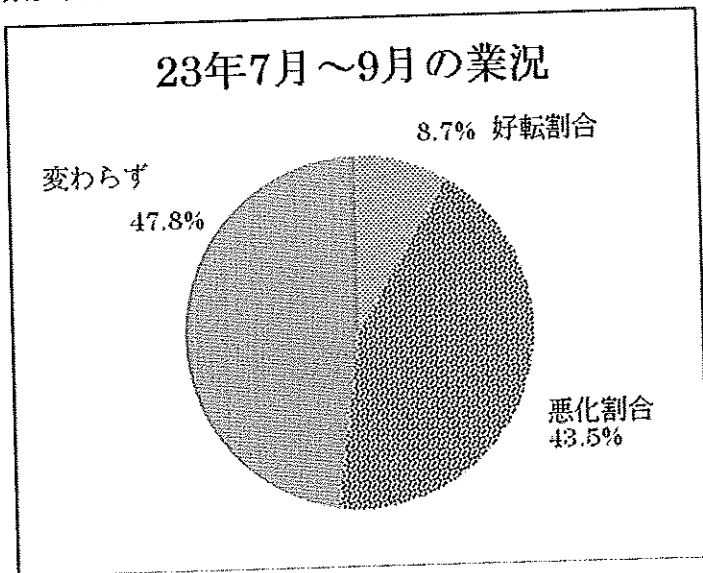
設備操業率の動向



#### 4、 前期比傾向値と業況判断の推移



#### 業況判断



#### 売上・収益・価格の動き

□製造業 22年7月～9月と比べた 23年7月～9月実績 (単位：%)

(DI 値指標)

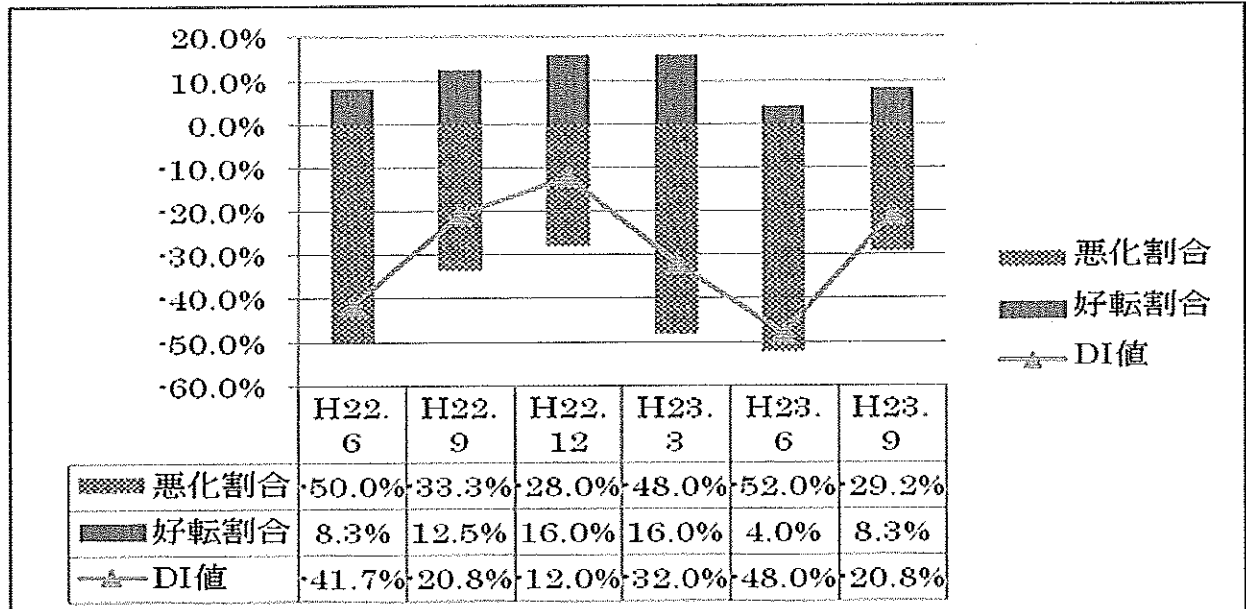
	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.9 月期	H22.9 月期
売上額	17.4	30.4	52.2	△34.8	△8.3
受注残	16.7	55.6	27.8	△11.1	15.0
採算	4.3	56.5	39.1	△34.8	△12.5
売上単価	17.4	65.2	17.4	0.0	△12.5
売上数量	21.7	30.4	47.8	△26.1	△4.2
原材料仕入単価	63.2	36.8	0.0	63.2	△6.1
原材料在庫数量	31.6	36.8	31.6	0.0	△4.3
資金繰り	0.0	60.9	39.1	△39.1	△4.2

前年同月期と比較すると、売上・受注残・採算等売上に関する指標の悪化が多くみられる。それに比べ仕入単価の上昇が大幅に上昇していることが見受けられる。

## II、建設業

### 1、概況

業況判断指数 DI 値（「良い」－「悪い」企業割合）は、 $\Delta 20.8$  となり、6月調査比較して 27.2 ポイントマイナス幅が縮小し業況は好転した。前年同期（ $\Delta 20.8$ ）に対して、横ばいとなっている。



#### 1) 完成工事額、採算の状況・・・好転傾向

完成工事額の6月調査 DI 値は、 $\Delta 44.0$  に対して、今期の DI 値は  $\Delta 34.8$  で 9.2 ポイントマイナス幅が縮小し好転した。来期の見通しについては、6月調査  $\Delta 32.0$  と今期  $\Delta 34.8$  となり、ほぼ横ばいを見通している。

採算面では、6月調査 DI 値は、 $\Delta 44.8$  で今期の DI 値は  $\Delta 20.8$  で 24.0 ポイントマイナス幅が縮小し採算は好転した。採算の面でも、6月調査 DI 値は、 $\Delta 44.0$  に対して今期 DI 値は、 $\Delta 20.8$  で 23.2 ポイントマイナス幅が改善し採算は好転した。来期の見通しについては、6月調査 DI 値  $\Delta 37.5$  と今期 0.0 となり、37.5 ポイント採算が好転すると見通している。

#### 2) 契約残・・・増加傾向

契約残の6月調査 DI 値は、 $\Delta 20.8$  に対して今期の DI 値は 9.1 で、29.9 ポイントの大幅に契約残が増加した。

#### 3) 価格の状況・・・仕入単価は高止まり

仕入単価の6月調査の DI 値は 60.0 に対して、今期 50.0 で 10.0 ポイント低下したが、依然高止まり傾向を示している。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は 52.0 に対して、今期 42.9 で 9.1 ポイント低下したが、来期も仕入単価は高止まりすると見通している。

#### 4) 資金繰りの状況・・・好転傾向

資金繰りの6月調査 DI 値は  $\Delta 28.8$  で今期  $\Delta 4.2$  で 24.6 ポイントマイナス幅が縮小して、好転傾向を示している。来期の資金繰りの見通しについては、6月調査 DI 値  $\Delta 36.0$  で今期  $\Delta 31.8$  となり 4.2 ポイントマイナス幅が縮小したが、ほぼ横ばいを見通している。

#### 5) 従業員数の動き・・・増加傾向

従業員数の動きは、6月調査 DI 値  $\Delta 12.0$  で今期 4.2 で 16.2 ポイント従業員数が増加した。来期の従業員数の見通しについては、6月調査 DI 値  $\Delta 20.8$  今期  $\Delta 9.1$  で 11.7 ポイント従業員数の増加を見通している。

今期の建設業全体に好転と見込んでいる事業所が多いように思える。時期的な要素などがある。不安要素としては材料の仕入単価の高止まりが大きい。これからの市場が小さくなる中で、生きてゆくにはどのようにすべ

きか各々考える時が来ているのではないか。

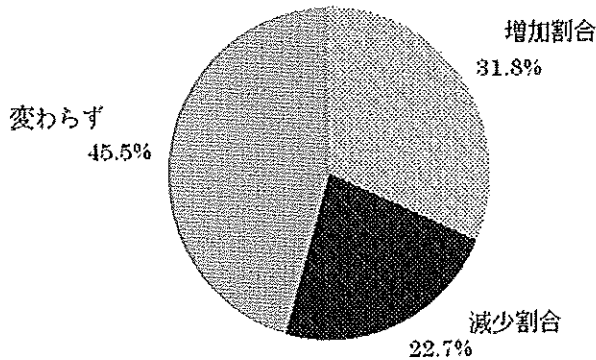
## 2、来期の全体の業況の見通しについて

来期の業況の見通しについては、 $\Delta 22.7$  となり、6月調査に比較して2.7ポイントマイナス幅が拡大し、業況は若干悪化すると見込んでいる。前年同期 ( $\Delta 21.7$ ) に対して、1ポイントマイナス幅が若干悪化したが、ほぼ横ばいと見込んでいる。

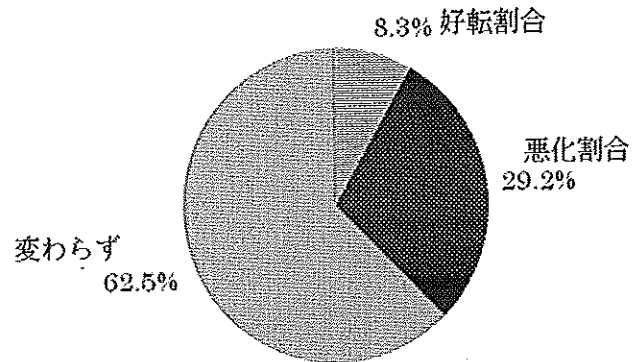
完成工事額は、 $\Delta 34.8$  (今期 $\Delta 34.8$ ) で今期と同様に見込んでいる。採算は、0.0 (今期 $\Delta 20.8$ ) で20.8ポイントマイナス幅が改善すると見通している。受注額は、 $\Delta 27.3$  (今期12.5) で14.8ポイントマイナス幅が悪化すると見通している。原材料仕入単価は、42.9 (今期50.0) で $\Delta 7.1$ ポイント、仕入単価は少し落ち着くのではないかと見通している

## 3、契約残、採算、引合いの動向

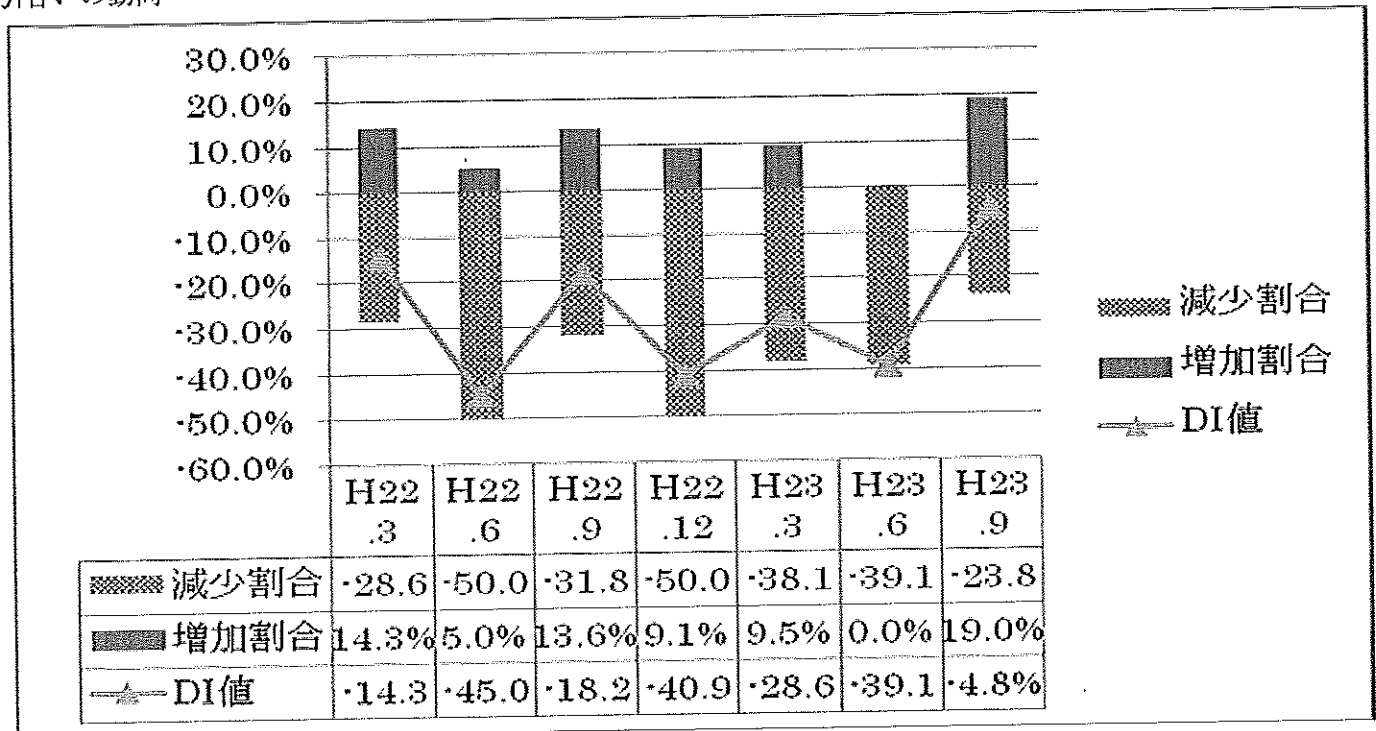
契約残の状況 (前年同期比)



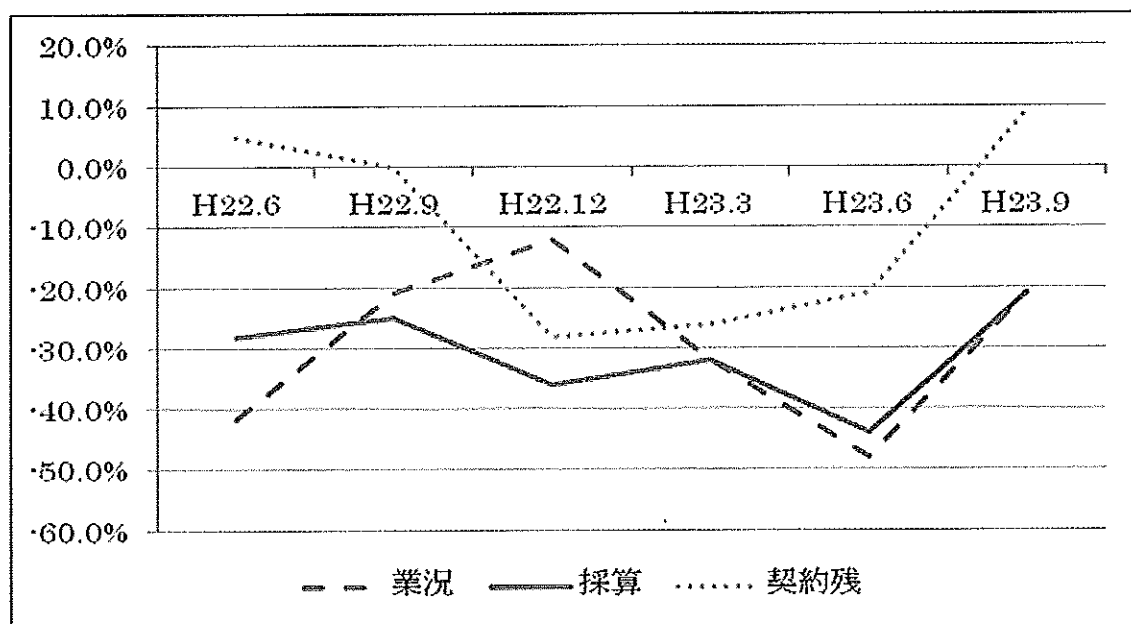
採算の状況 (前年同期比)



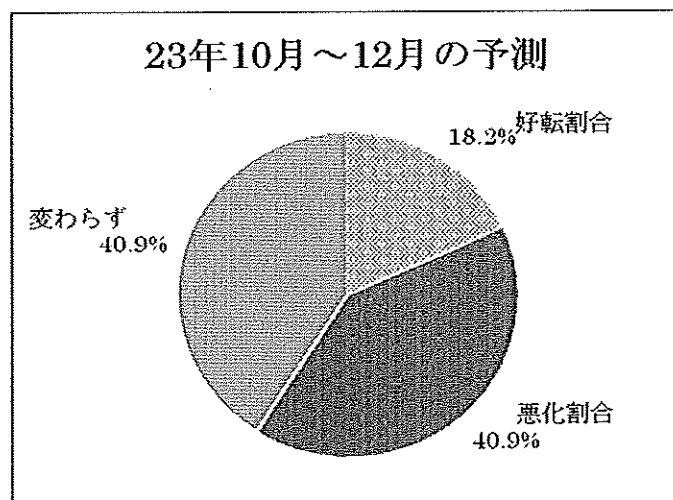
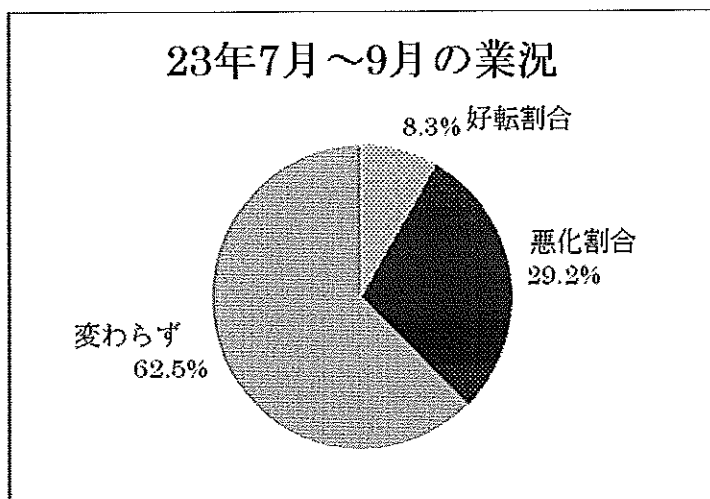
## 引合いの動向



#### 4、前期比傾向値と業況判断



業況判断



売上・収益・価格の動き

□建設業 22年7月～9月と比べた23年7月～9月実績 (単位：%)

(DI 値指標)

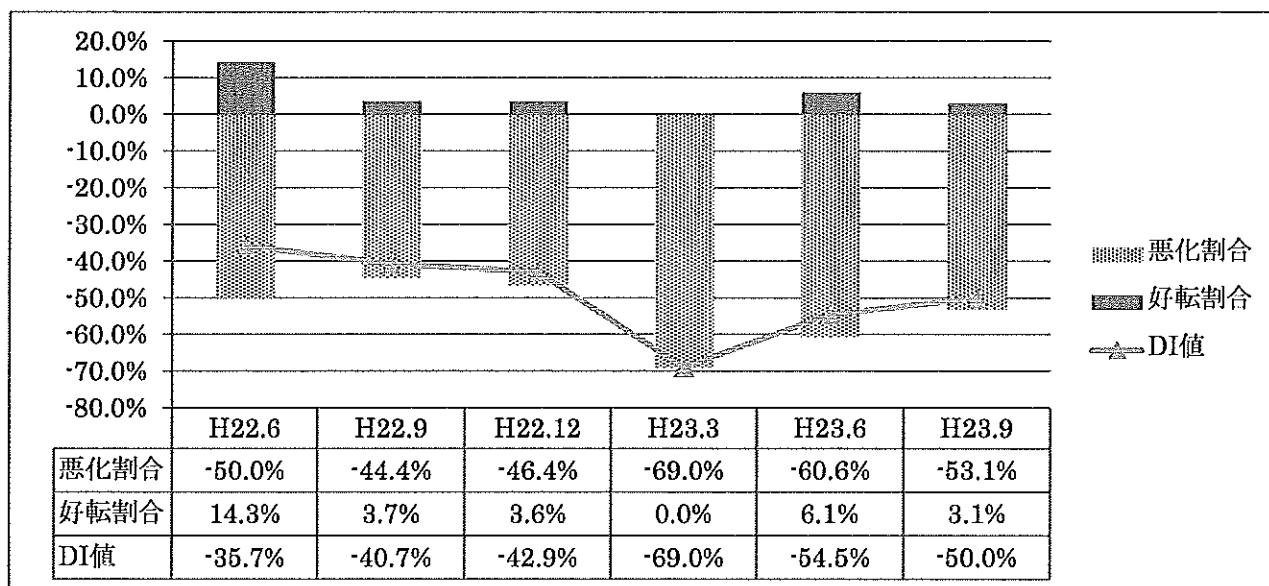
	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.9 月期	H22.9 月期
完成工事額	17.4	30.4	52.2	△34.8	△4.2
受注額	25.0	37.5	37.5	△12.5	4.3
採算	8.3	62.5	29.2	△20.8	△25.0
材料仕入れ単価	50.0	50.0	0.0	50.0	20.8
引合い	19.0	57.1	23.8	△4.8	△18.2
契約残	31.8	45.5	22.7	9.1	0.0
資金繰り	12.5	70.8	16.7	△4.2	△25.0

前年同月期を比較すると、契約残以外悪化の傾向を示している。特に、材料仕入れ単価の上昇が大きい。

### Ⅲ、小売業

#### 1、概況

業況判断指数 DI 値（「良い」－「悪い」企業割合）は、 $\Delta 50.0$  となり、6月調査と比較して 4.5 ポイントマイナス幅が縮小したが、業況はほぼ横ばいと考えられる。前年同期（ $\Delta 40.7$ ）に対して 9.3 ポイントマイナス幅が拡大した。



#### 1) 売上額、採算の状況・・・低迷

売上額の 6月調査 DI 値は、 $\Delta 42.4$  に対して、今期 DI 値は  $\Delta 51.5$  で 9.1 ポイントマイナス幅が拡大悪化した。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は  $\Delta 60.6$  で今期  $\Delta 54.5$  となり、6.1 ポイント低下すると見通している。採算面では、6月調査 DI 値は、 $\Delta 54.8$  に対し今期 DI 値は 50.0 で 4.8 ポイントマイナス幅が縮小した。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は  $\Delta 65.6$  と今期  $\Delta 43.8$  となり、21.8 ポイントマイナス幅が縮小し改善すると見通している。

#### 2) 在庫数量・・・減少傾向

在庫数量の 6月調査 DI 値は、 $\Delta 43.8$  に対して今期  $\Delta 37.5$  となり、6.3 ポイント在庫数量が減少している。

#### 3) 価格の状況・・・客単価は減少・商品仕入単価は上昇

客単価の 6月調査 DI 値は、 $\Delta 39.4$  に対して今期  $\Delta 45.5$  で 6.1 ポイントマイナス幅が上昇し客単価は低下した。来期の見通しについては、6月調査 DI 値  $\Delta 42.4$  に対して今期  $\Delta 45.5$  となり、3.1 ポイント客単価は低下すると見通している。

商品仕入単価については、6月調査 DI 値は、12.5 に対し今期 9.4 で 3.1 ポイントプラス幅が低下した。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は、3.1 に対して、今期  $\Delta 6.3$  で 9.4 ポイント商品仕入単価が低下すると見通している。

#### 4) 客数の動き・・・激減

客数の 6月調査 DI 値は、 $\Delta 46.9$  に対して、今期  $\Delta 48.4$  で 1.5 ポイントマイナス幅が拡大したが、ほぼ横ばいとみて良い。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は、 $\Delta 48.5$  に対し今期  $\Delta 62.5$  で 14.0 ポイントマイナス幅が拡大し、見通している。地元のお店の存在意義が問われている。

#### 5) 資金繰りの状況・・・悪化の見通し

資金繰りの 6月調査 DI 値は、 $\Delta 32.3$  に対して今期  $\Delta 25.0$  で 7.3 ポイントマイナス幅が減少し、好転している。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は、 $\Delta 28.1$  に対して今期  $\Delta 39.4$  で 11.3 ポイントマイナス幅が拡大すると見通している。

## 6) 従業員数の動き・・・今期若干減少

従業員数の6月調査DI値は、△13.8に対して今期△3.6で10.2ポイントマイナス幅が減少した。来期の見通しについては、6月調査DI値は、△17.9に対して今期△14.3で3.6ポイントマイナス幅が縮小すると見通している。

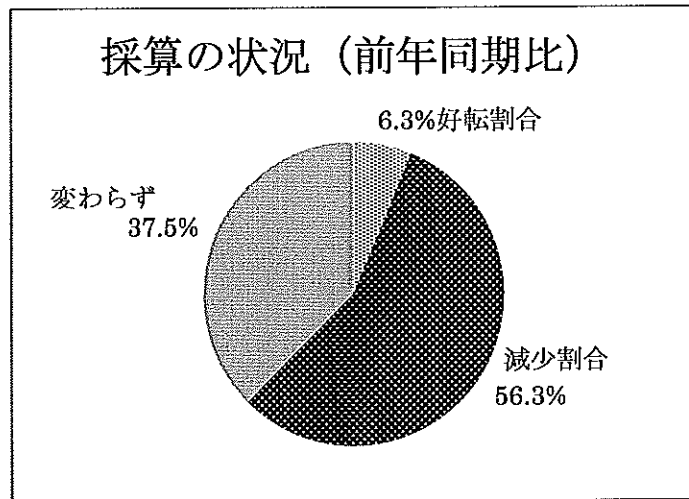
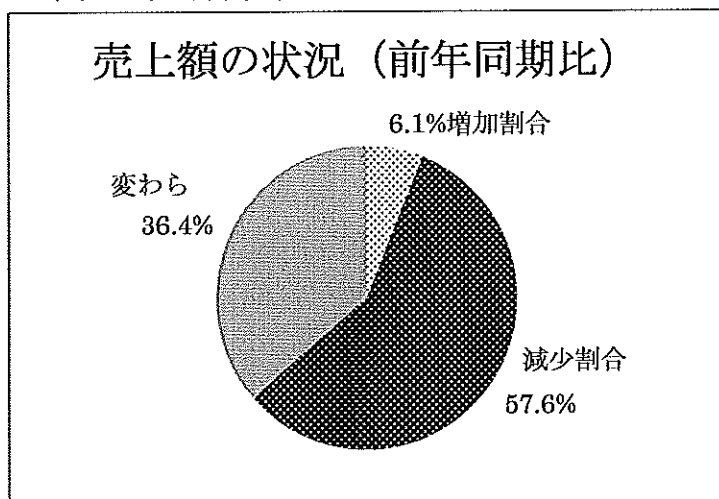
## 2、来期の全体的な業況の見通し

来期の業況の見通しについては、△50.0となり、6月調査に比較して4.5ポイントマイナス幅が縮小し、業況は若干改善すると見込んでいる。前年同期（△40.7）に対して、9.3ポイントマイナス幅が拡大し悪化すると見込んでいる。

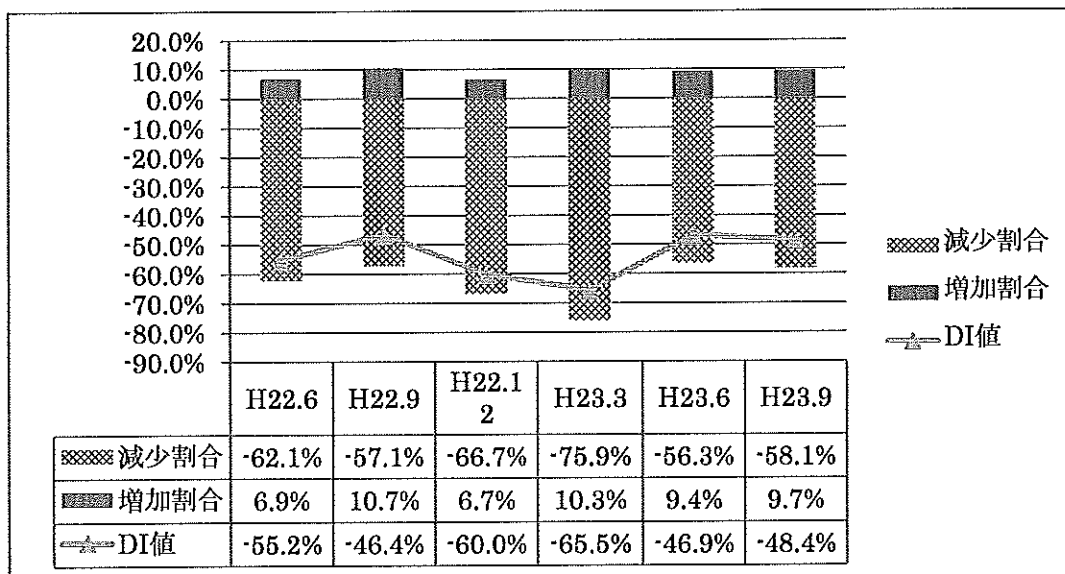
売上額は、△54.5（今期△51.5）で3ポイントマイナス幅が拡大し悪化すると見込んでいる。採算は、△43.8（今期△50.0）で6.2ポイントマイナス幅が縮小し、若干改善を見込んでいる。客単価は、△45.5（今期△45.5）、客数は、△62.5（今期48.4）で客単価は今期と同様と見込んでいるが、客数が△14.1ポイントマイナス幅が拡大し悪化すると見込んでいる。

逆に、仕入単価は、△6.3（今期9.4）、仕入額は△40.6（今期△21.9）で仕入単価は15.7ポイント、仕入額は18.7ポイント仕入単価及び仕入額が減少している。在庫数量は△37.5（今期△37.5）と今期と同様に見込んでいる。

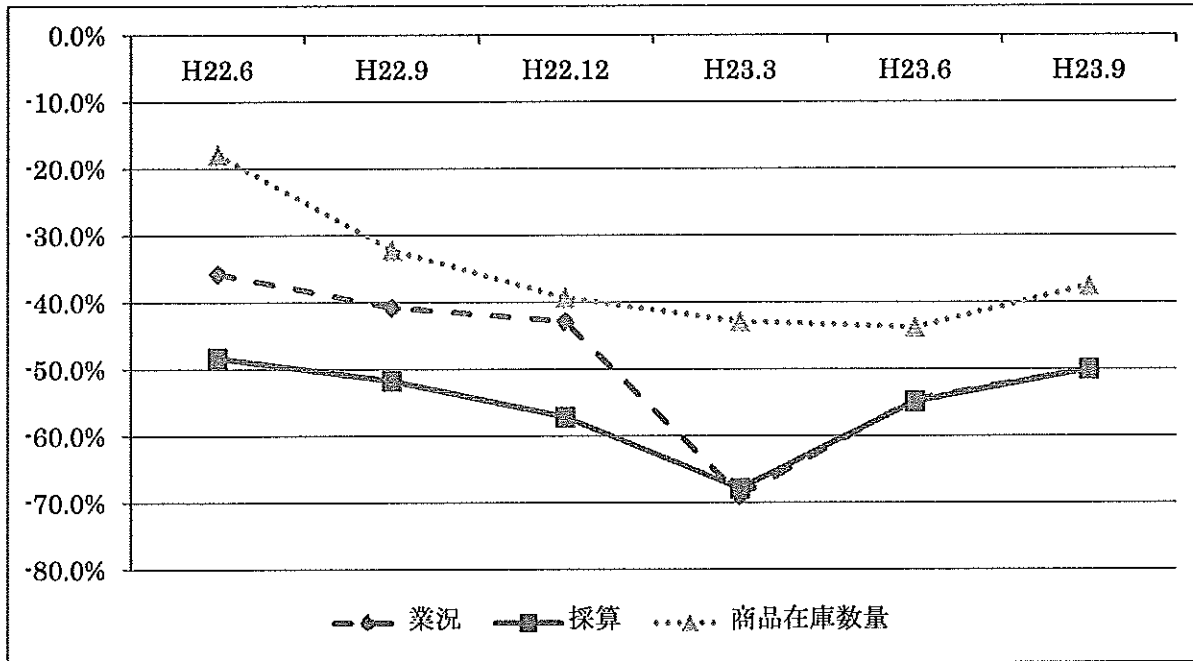
## 3、売上、採算、客数の動向



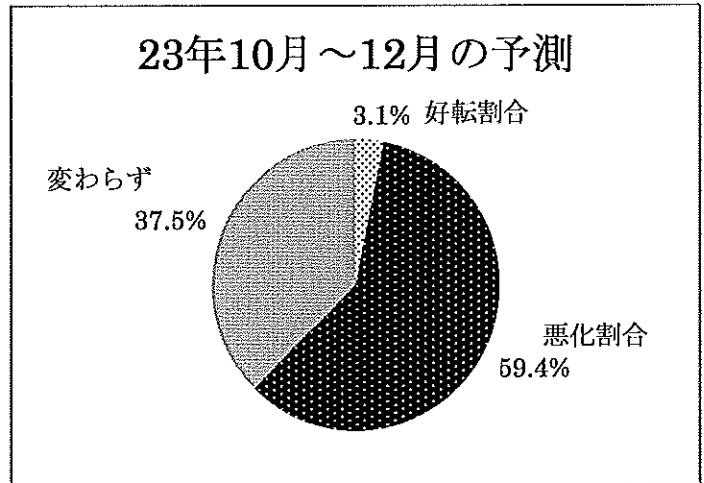
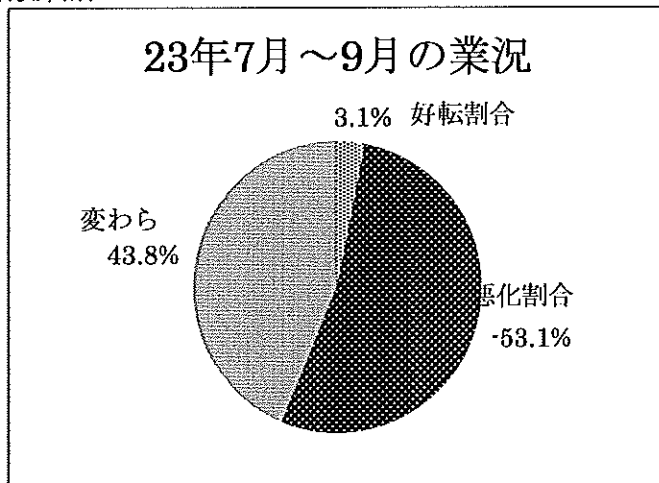
### 客数の動向



#### 4、前期比傾向値と業況判断



#### 業況判断



#### 売上・収益・価格の動き

□小売業 22年7月～9月と比べた 23年7月～9月実績 (単位：%)

(DI 値指標)

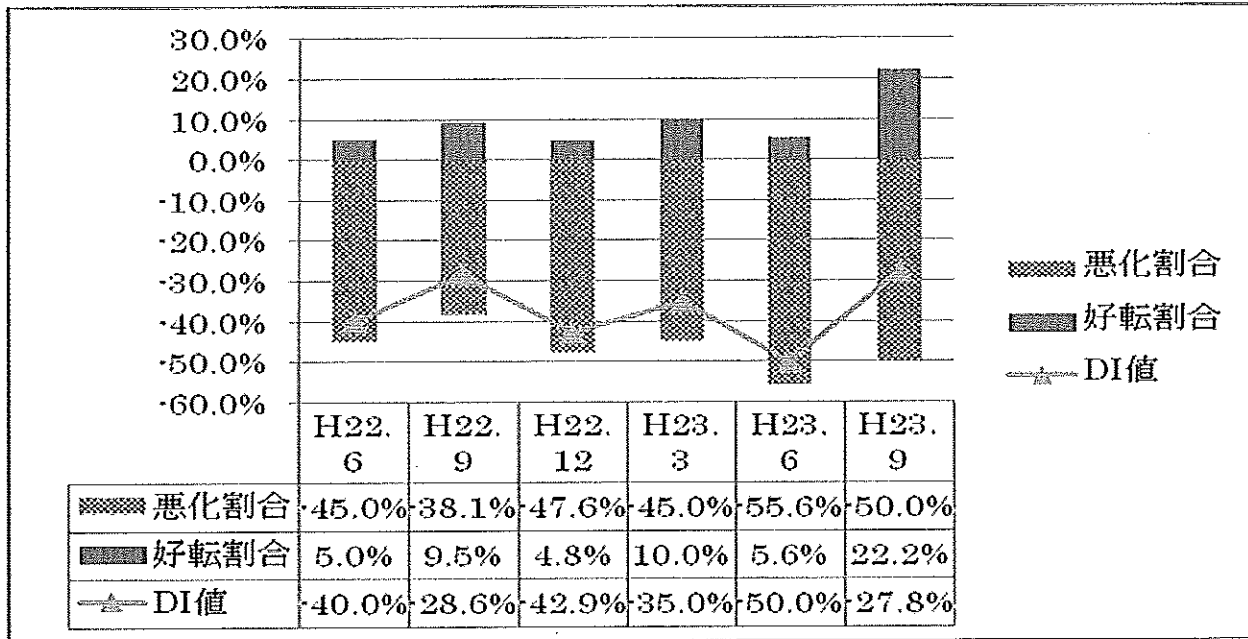
	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.9 月期	H22.9 月期
売上額	6.1	36.4	57.6	△51.5	△51.7
採算	6.3	37.5	56.3	△50.0	△51.7
客単価	3.0	48.5	48.5	△45.5	△50.0
客数	9.7	32.3	58.1	△48.4	△46.4
商品仕入単価	25.0	59.4	15.6	9.4	△6.9
商品在庫数量	0.0	62.5	37.5	△37.5	△32.1
商品仕入額	21.9	41.9	43.8	△21.9	△51.7
資金繰り	0.0	75.0	25.0	△25.0	△43.3

業界全体が、冬の時代を迎えている。繁栄するには、自分自身のお店の特徴を如何にアピールしていくのが大きく関わってくるであろう。

## IV、サービス業

### 1、概況

業況判断指数 DI 値（「良い」－「悪い」企業割合）は、 $\Delta 27.8$  となり、6月調査と比較して 12.2 マイナス幅が縮小し、業況は好転した。前年同期（ $\Delta 28.6$ ）に対し 0.8 ポイントマイナス幅が縮小し改善した。



#### 1) 売上額、採算の状況・・・売上増加・採算も改善

売上額の6月調査 DI 値は、 $\Delta 55.6$  に対して今期 DI 値は、 $\Delta 33.3$  で 22.2 ポイントマイナス幅が縮小し増加した。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は、 $\Delta 44.4$  で今期  $\Delta 35.3$  となり 9.1 ポイント増加すると見通している。採算面では6月調査 DI 値は、 $\Delta 33.3$  に対して今期 0.0 でマイナス幅が大幅に縮小した。来期の見通しについては6月調査 DI 値は、 $\Delta 27.8$  に対して今期  $\Delta 12.5$  で 15.3 ポイントマイナス幅が縮小し採算が改善すると見通している。

#### 2) 価格の状況・・・販売価格上昇傾向・仕入価格安定

客単価の6月調査の DI 値は、 $\Delta 44.4$  で今期  $\Delta 27.8$  で 16.6 ポイントマイナス幅が縮小し客単価が増加した。来期の見通しについては、6月調査の DI 値  $\Delta 33.3$  に対して今期  $\Delta 17.6$  で 15.7 ポイントマイナス幅が減少し、客単価は上昇すると見通している。仕入価格は、6月調査の DI 値は、11.1 で今期 5.6 で 5.5 ポイントプラス幅が下降傾向を示している。来期の見通しについては、6月調査 DI 値は、16.7 に対し今期 0.0 で 16.7 ポイントプラス幅が下降傾向が示している。ここに来て、仕入価格は、安定してきたものとみられる。

#### 3) 資金繰りの状況・・・改善の動き

資金繰りの6月調査の DI 値は、 $\Delta 38.9$  で今期  $\Delta 5.9$  で 33.0 ポイントマイナス幅が縮小し改善された。来期の見通しについては、6月調査の DI 値は  $\Delta 38.9$  で今期  $\Delta 31.3$  と 7.6 ポイントと若干改善されると見通している。

#### 4) 利用客数の動き・・・今期は改善・次期は悪化か

利用客数の6月調査の DI 値は、 $\Delta 55.6$  で今期  $\Delta 38.9$  で 16.7 ポイントマイナス幅が改善され利用客の増加が見受けられる。来期の見通しについては、6月調査の DI 値は、 $\Delta 44.4$  で今期  $\Delta 52.9$  で 8.5 ポイント少なくなると見通している。

#### 5) 従業員数の動き・・・減少傾向

従業員数の6月調査の DI 値は、 $\Delta 5.9$  で今期  $\Delta 11.8$  で 5.9 ポイント拡大し減少している。来期の見通しについては、

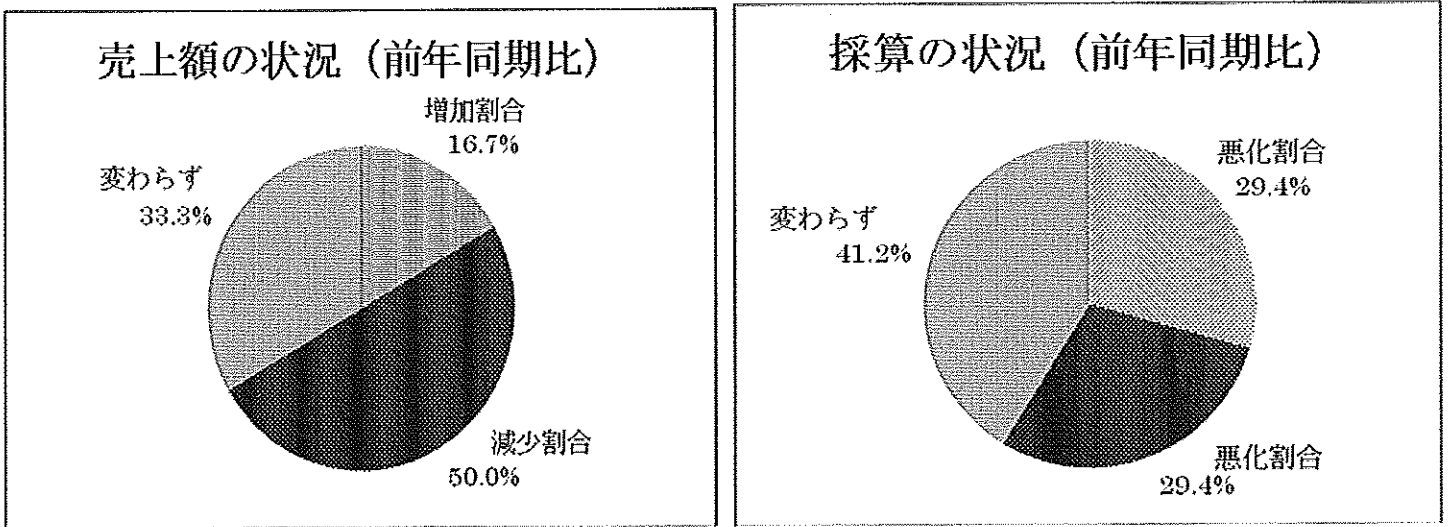
6月調査のDI値は、△5.9で今期△18.8で12.9ポイント拡大し従業員数は、減少を見通している。

## 2、来期の全体の業況の見通し

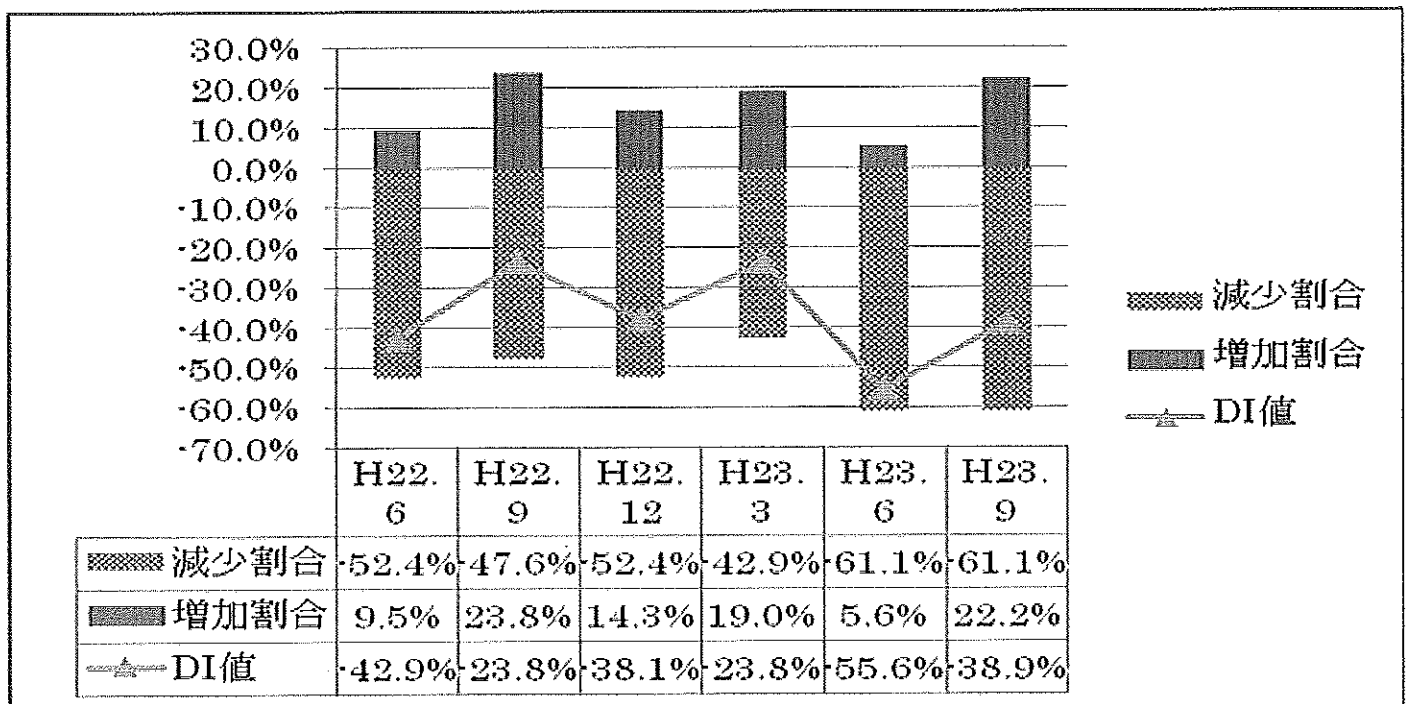
来期の業況の見通しについては、△35.3となり、6月調査と比較して2.0ポイントマイナス幅が拡大し、業況は若干悪化すると見込んでいる。前年同期（△25.0）に対しても10.3ポイントマイナス幅が拡大し悪化すると見込んでいる。

売上額は、△35.3（今期△33.3）で2ポイントマイナス幅が拡大し悪化すると見込んでいる。採算は、△12.5（今期0.0）で12.5ポイント、客単価は、△17.6（今期△27.8）で10.2ポイント、利用客数は、△52.9（今期△38.9）で14.0ポイントマイナス幅がそれぞれ拡大し悪化すると見込んでいる。

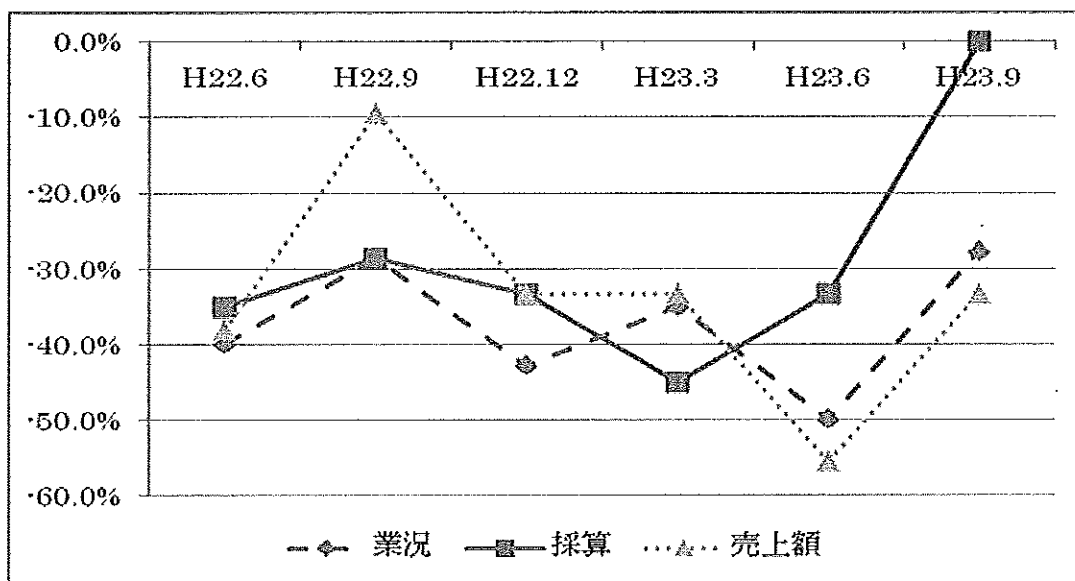
## 3. 売上、採算、利用客数の動向



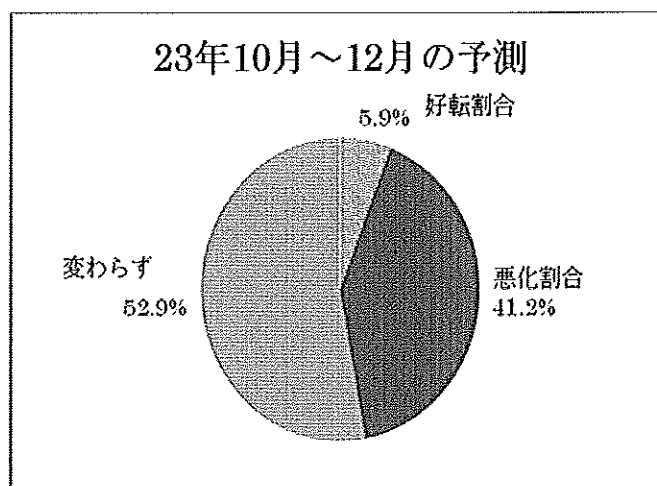
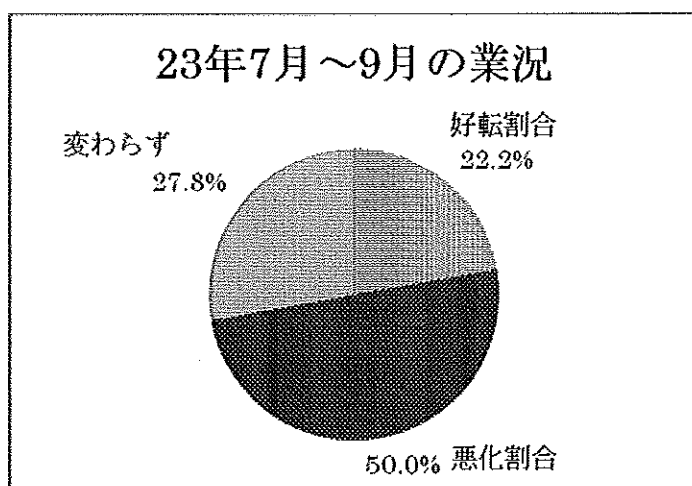
## 利用客数の動向



#### 4、前期比傾向値と業況判断



#### 業況判断



#### 売上・収益・価格の動き

□サービス業 22年7月～9月と比べた 23年7月～9月実績 (単位：%)

(DI 値指標)

	増加・上昇 過剰・好転	変わらず 適正	減少・低下 不足・悪化	H23.9 月期	H22.9 月期
売上額	16.7	33.3	50.0	-33.3	-9.5
採算	29.4	41.2	29.4	0.0	-28.6
客単価	5.6	61.1	33.3	-27.8	-38.1
利用客数	22.2	16.7	61.1	-38.9	-23.8
仕入単価	22.2	61.1	16.7	5.6	19.0
資金繰り	17.6	58.8	23.5	-5.9	-10.0